

謝辞

- 島袋幸子氏，狩俣繁久氏には調査にご協力いただいた。また，発表の準備にあたり，三宅知宏氏，風間伸次郎氏，狩俣繁久氏，島袋幸子氏，白田理人氏，新永悠人氏，麻生玲子氏，小川芳樹氏，中川奈津子氏，Gijs van der Lubbe氏，岡崎威生氏，松岡葵氏，宮岡大氏，王丹凝氏，林カイチ氏，陶天龍氏，Salvatore Carlino氏，齋藤浩子氏，宮川創氏，又吉里美氏，Wayne Lawrence氏，Christopher Davis氏，占部由子氏，仲原穰氏，加治工真市氏に貴重なコメントをいただいた。記して感謝申し上げる。
- 本発表は以下の支援を受けている。



基盤(A) 文法記述と比較研究による琉球諸語と九州方言の歴史言語学的研究
(代表 狩俣繁久 22H00007)



基盤(B) 日琉諸語の有標主格性に関する基礎的研究
(代表 下地理則 19H01255)

琉球諸語における 除括性（clusivity）の 類型的特徴と通時変化

下地理則(九州大学)

本発表では

- 琉球諸語における除括性：既存の記述に基づく類型化

区別なし
区別あり
区別あり？



除外形（と思しき形式）が包括まで使えるという共通特徴。
記述を詳細に検討し、除括の類型論(Cysouw 2003, 2005, Filimonova 2005)における位置付けをはっきりさせる。

本発表では

- 琉球諸語における除括性：既存の記述に基づく類型化

区別なし
区別あり
区別あり？



除外形（と思しき形式）が包括まで使えるという共通特徴。
記述を詳細に検討し、除括の類型論(Cysouw 2003, 2005, Filimonova 2005)における位置付けをはっきりさせる。

- 除括類型と通時変化

琉球でよくある変化
共時類型

区別あり >	除外形の拡張 >	区別消滅
INCL-EXCL	移行期（上記）	Unified-we



類型論における知見
「ほとんどの場合、除括の消失においてはINCLが拡大してEXCLを追い出す」に対する
重要な反例

本発表では

- 琉球諸語における除括性：既存の記述に基づく類型化

区別なし
区別あり
区別あり？



除外形（と思しき形式）が包括まで使えるという共通特徴。
記述を詳細に検討し，除括の類型論(Cysouw 2003, 2005, Filimonova 2005)における位置付けをはっきりさせる。

- 除括類型と通時変化

琉球でよくある変化
共時類型

区別あり >	除外形の拡張 >	区別消滅
INCL-EXCL	移行期（上記）	Unified-we



類型論における知見
「ほとんどの場合，除括の消失においてはINCLが拡大してEXCLを追い出す」に対する
重要な反例

- 残された研究課題と展望
 - 未解決の問題の相談，調査票の共有，科研のお誘いなど



琉球諸語における除括性： 類型化



南琉球宮古語伊良部島長浜方言 (Shimoji 2008)

バンテャー スバウ ファーディドー
私たちは 宮古そばを 食べますよ



2



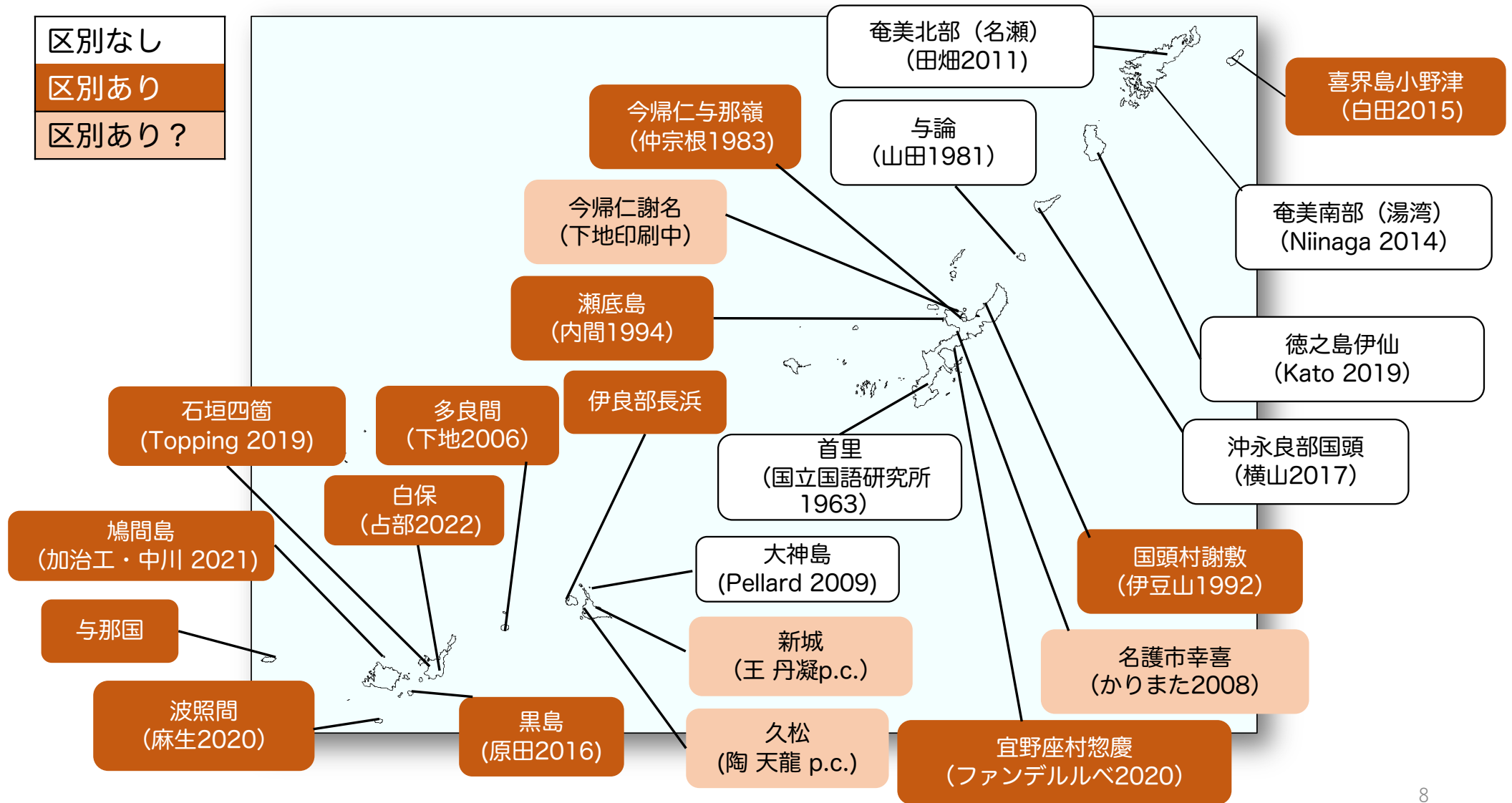
除外 (聞き手含まず)

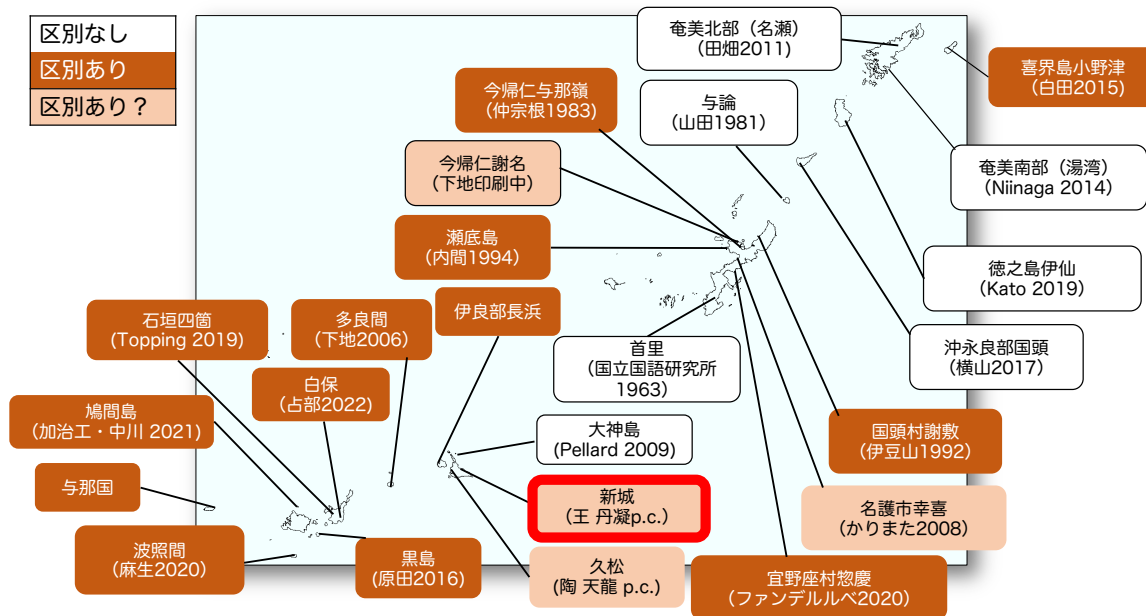
ドゥーヤ スバウ ファーディイ
私たちは 宮古そばを 食べようね



包括 (聞き手含む)

区別なし
区別あり
区別あり？





(1) kamarii=du uu=dara. {bantaa/duutaa}=ja sadarii=du ikadi.

退屈して=FOC いる=でしょ {GNRL/INCL}=は 先に=FOC 行こう

「退屈してるね。私たちは（私とあなた）もう先に帰ろう。」

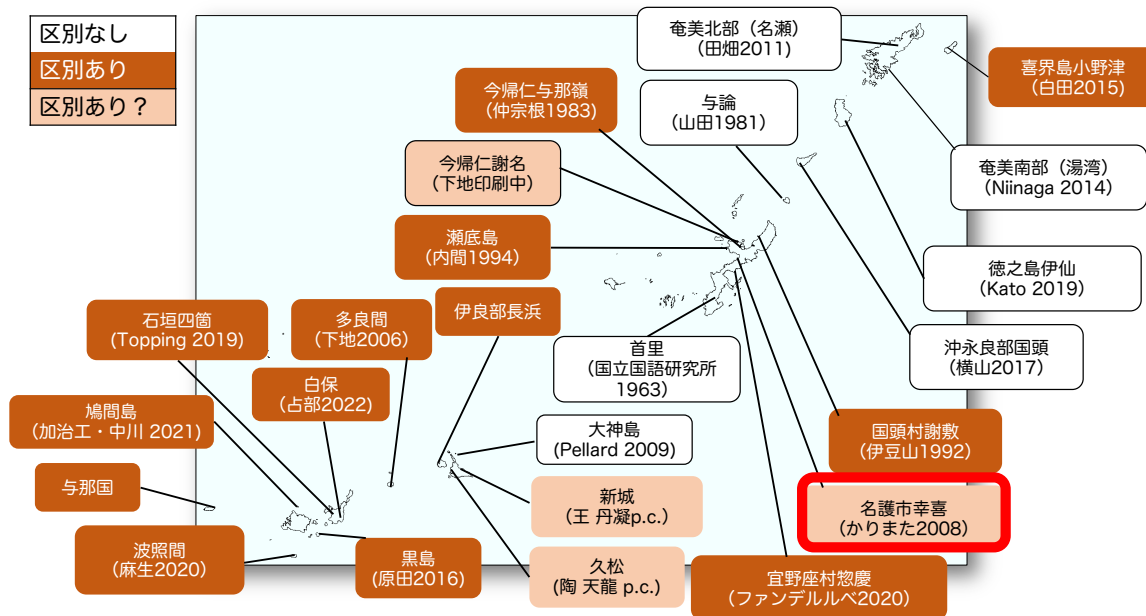
SG		ban
PL	EXCL	bantaa
	INCL	duutaa

一般形 vs. 包括形
(王, in.prep)

(2) {bantaa/*duutaa}=ja kanu tukja=n=na funi=n=du nuurjuutaa.

{GNRL/*INCL}=は あの とき=に=は 船=に=FOC 乗っていた

「私たち（AとB）はあの時は船に乗っていた。」（AとBは夫婦。Aが調査者に向かっていう）



名護市幸喜方言

(かりまた 2008: 19, 太字は発表者)

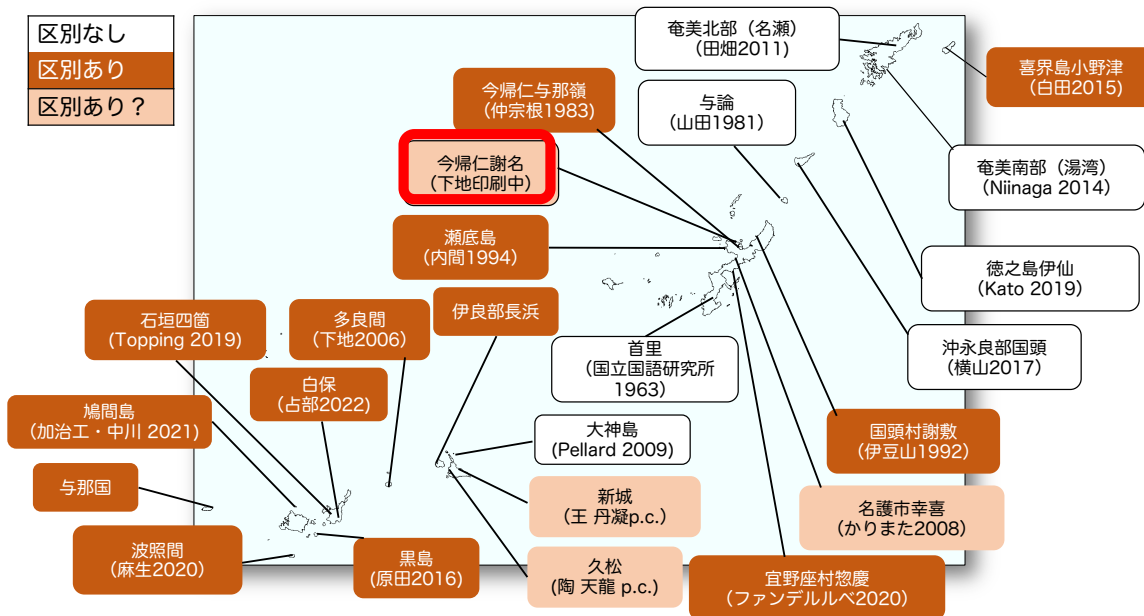
「?aga は聞き手を含む包括的複数inclusive plural の代名詞である。watta は聞き手を含まないexclusive plural の代名詞である (中略) **ただし, watta を包括的複数で使用する こともある**」

SG		wanu
PL	EXCL	watta
	INCL	?aga

一般形 vs. 包括形?

(3) ?aga-ga ?idzanu para-ni hatfimitsu neNtaN=ja:.
私たちが 行った ところ-に 蜂蜜が なかった=ねえ

(4) ku:=ja watta baN etu ?itta=ja atja-nu baN esa:.
今日は 私たち (の) 番 だから 君らは 明日の (順) 番だよ

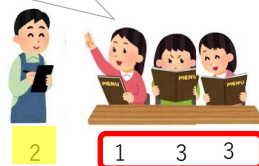


SG		wan
PL	EXCL (vs. 2)	wattaa
	INCL (vs. 3)	
	INCL	agamii

人称対立形 vs. 包括形
(下地2021, 印刷中)

除外

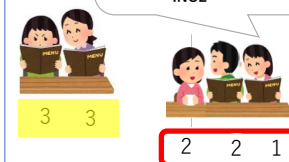
wattaa=ja suba kamabin.
 私たちEXCL=は 沖縄ソバ 食べます。



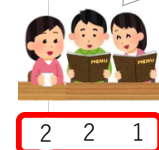
人称対立あり

包括

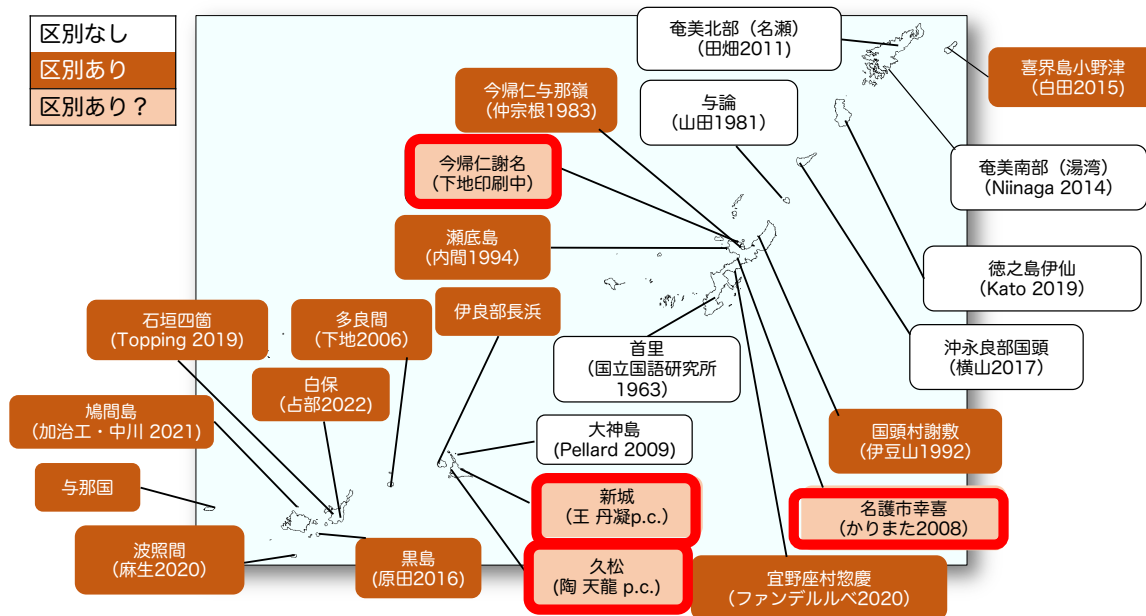
attaa=ja suba giseesiba
 彼ら=は 沖縄ソバ らしいけど
wattaa=ja nuu kamiiga?
 私たちINCL=は 何 食べようか？



agamii=ja nuu kamabiiga?
 私たちINCL=は 何 食べようか



人称対立なし



共通点：除外に使える形式が包括指示にも拡張使用(Extended-EXCL)

SG		ban
PL	EXCL	bantaa
	INCL	duutaa

宮古語新城方言
(一般形 vs. 包括形)

SG		wanu
PL	EXCL	watta
	INCL	?aga

名護市幸喜方言
(一般形 vs. 包括形？)

SG		wan
PL	EXCL (vs. 2)	wattaa
	INCL (vs. 3)	
	INCL	agamii

今帰仁謝名方言
(人称対立形 vs. 包括形)

下地理則 琉球諸語における除括性 (clusivity) の類型的特徴と通時変化

除括類型：WALS (Cysouw 2005)

Feature 39A: Inclusive/Exclusive Distinction in Independent Pronouns



This feature is described in the text of chapter 39 [Inclusive/Exclusive Distinction in Independent Pronouns](#) by Michael Cysouw [cite](#)

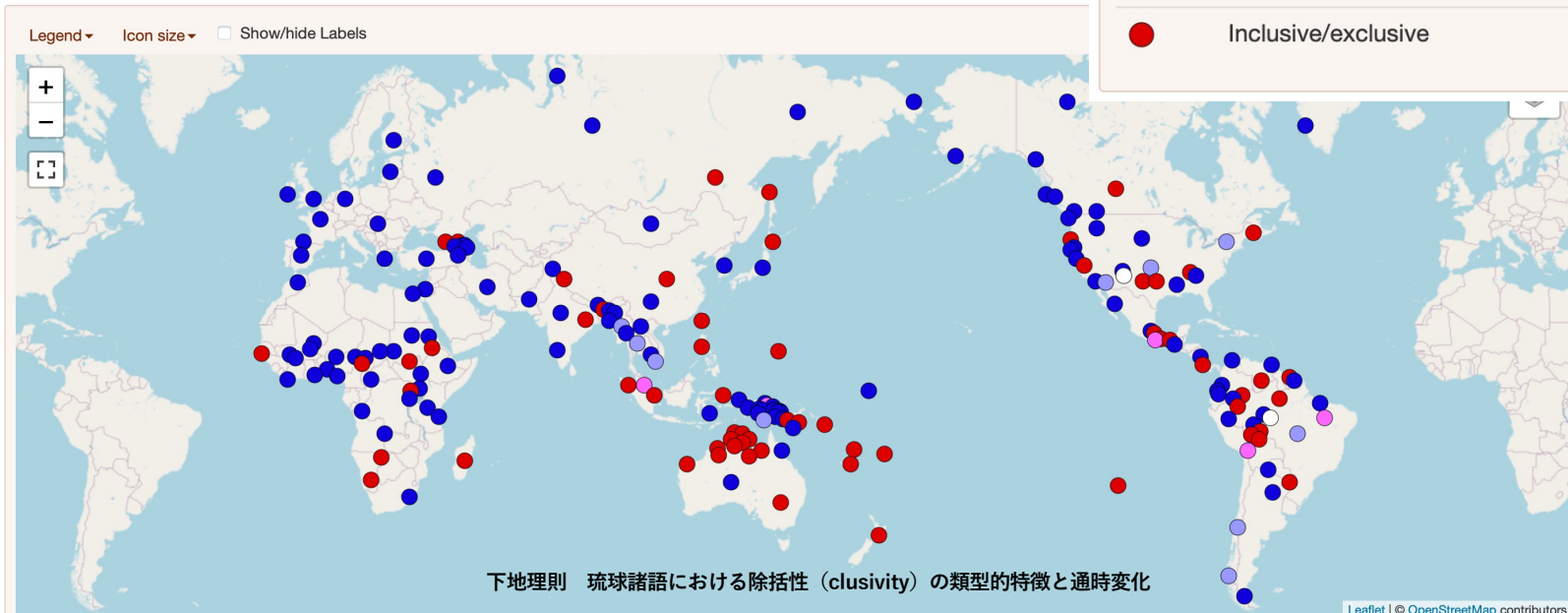
You may combine this feature with another one. Start typing the feature name or number in the field below.

× 39A: Inclusive/Exclusive Distinction in Independent Pronouns

Submit

Values

☐	No 'we'	2
☐	'We' the same as 'I'	10
☒	No inclusive/exclusive	120
☐	Only inclusive	5
☐	Inclusive/exclusive	63



除括類型：ざっくりと理解するために

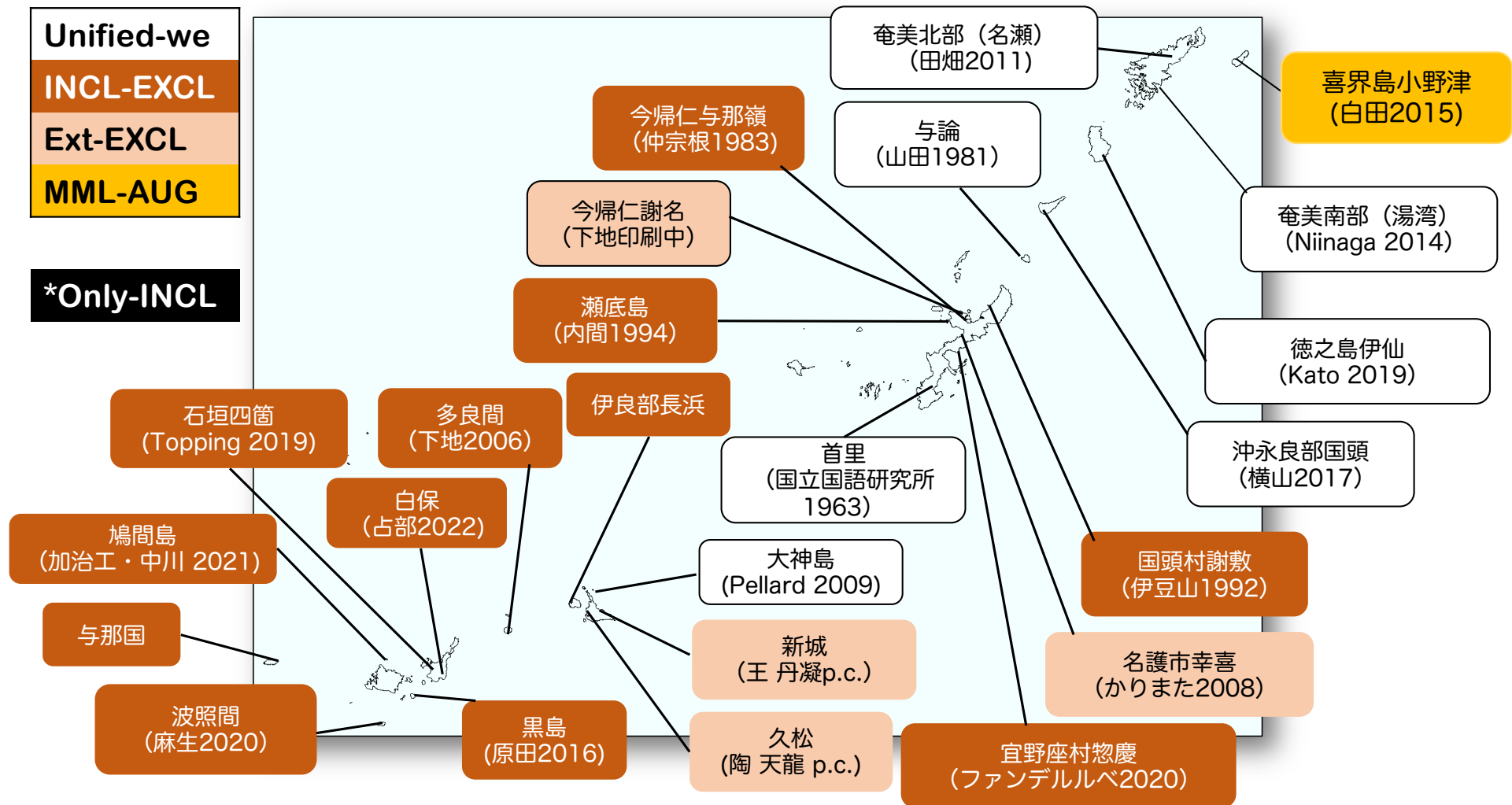
	INCL (1+2+3)	INCL (1+2)	EXCL (1+3)	SG (1)
Unified we	私たち			私
INCL-EXCL	我々		私たち	私
Only-INCL	我々		私（たち）	
Minimal-Augmented	我々たち	我々	私たち	私

1(+3)	na
2(+3)	juma
3(+3)	upa
1+2(+3) = 包括	jiwsa

Jaqaru (Only-inclusive)

Minimal		Augmented	
1	co	+3	mi
2	mo	+3	yo
3	na	+3	da
1+2 = 包括	ta	+3 = 包括	tayo

Ilocano (Minimal-augmented)



Extended-EXCLは 類型的にOnly-INCLと同じ？

拡張除外体系 (Extended-EXCL)

SG		ban	
PL	EXCL	bantaa	
	INCL		duutaa

宮古語新城方言
(一般形 vs. 包括形)

SG		wanu	
PL	EXCL	watta	
	INCL		?aga

名護市幸喜方言
(一般形 vs. 包括形？)

SG		wan	
PL	EXCL (vs. 2)	wattaa	
	INCL (vs. 3)		
	INCL		agamii

今帰仁謝名方言
(人称対立形 vs. 包括形)

Only-INCL

1(+3)	na
2(+3)	juma
3(+3)	upa
1+2(+3) = 包括	jiwsa

ここまでのまとめと問題提起

- 琉球諸語の中には、現在の除括類型の1タイプに組み込めないものがある。「拡張除外」体系。これをどう位置付けるべきか？新たなタイプを立てる？Only-INCLとみなす？
- INCL-EXCLタイプとされている方言でも、よく調べれば拡張除外ということはないか？
 - 新城のように除外形が**一般形**と化している方言はないか？
 - 謝名のように除括性ではなく**人称対立性**で説明すべき方言はないか？
 - 逆に、「**拡張包括**」のようなパターンは？
 - 何かご存知でしたら教えてください。



琉球諸語の除括性： 通時変化の観点



「拡張除外」体系：新たなタイプを立てる？ Only-INCLとみなす？

拡張除外体系 (Extended-EXCL)				
SG		ban		
PL	EXCL	bantaa		
	INCL	duutaa		

宮古語新城方言
(一般形 vs. 包括形)

SG		wanu		
PL	EXCL	watta		
	INCL	ʔaga		

名護市幸喜方言
(一般形 vs. 包括形?)

SG		wan		
PL	EXCL (vs. 2)	wattaa		
	INCL (vs. 3)			
	INCL	agamii		

今帰仁謝名方言
(人称対立形 vs. 包括形)

- 共時類型で一見すると異質な体系：新たなタイプを立てるより、通時的に解釈した方が良い場合もある。
- 例：パミール諸言語における他動詞文中和型 (Payne 1980)
 - 1つの類型タイプにする：能格 vs. 対格 vs. 他動詞文中和型
 - 移行期と考える：能格 > (移行期：他動詞文中和型) > 対格

「拡張除外」体系： 移行期と位置付けられないか？

今帰仁謝名		
SG		wan
PL	EXCL (vs. 2)	wattaa
	INCL (vs. 3)	
	INCL	agamii

名護市幸喜		
SG		wanu
PL	EXCL	watta
	INCL	?aga

宮古新城		
SG		ban
PL	EXCL	bantaa
	INCL	duutaa

INCL-EXCL



移行期 (Ext-EXCL)



Unified we

宮古語のケーススタディ

- 除括の区別は（少なくとも）宮古祖語に遡ると思われる。
 - *ban-/*an-（除外語根）vs. *duu-（包括語根）か？
 - Diachronically an inclusive-exclusive opposition appears to be quite stable. [L]anguage isolation and contact only to close sisters favour the inheritance of the opposition even more strongly (Filimonova 2005: 412, 抜粋)
 - ただし，除括対立は，接触による拡散も生じやすい。対立そのものの借用という事態も無視できない(Jacobson 1980)

	多良間仲筋 (渡久山・セリック2020)	伊良部長浜 (Shimoji 2008)	池間西原 (林2013)	下地皆愛 (セリック2018)	新城 (王丹凝 p.c. 2021)	大神 (Pellard 2009)	狩俣 (衣畑・林2014)
EXCL	anta	banti	banti	banta	bantaa	antaa	baagaa
INCL	beeta	duu	duu	duuta	bantaa/duutaa		
タイプ	INCL-EXCL	INCL-EXCL	INCL-EXCL	INCL-EXCL	移行	Unified-we	Unified-we

宮古語大神島方言（現在はUnified-we）

- 大神の談話資料(日本放送協会編1972)から，再建ではなく直接に消失過程を知ることができる。
 - すでに消滅している包括形tuu-taaの記録（p. 155, 157, 159, 160）→ すべて包括指示の例
 - 現在も（一般形として）使われる旧除外形antaaの記録（p. 151, 155, 156）→ すべて除外指示の例

SG		anu
PL	EXCL	antaa
	INCL	tuuta

宮古語大神島方言

- 伊豆山(1994: 2)

	sg.	pl.	大自己称
1 人称	anu ara (ハ) aga (ガ, ノ)	anta	tu : ta
2 人称	vva	vvata	



SG		anu	
PL	EXCL	antaa	
	INCL		tuutaa

本発表の
除外

包括

(2) 1 人称複数 antaga と大自己称 tu : taga は以下のように対立する。

一人の男が友人に自分の畑を指して

kuma : antaga pari jassa :

ここは 私 (達) の畑 です

しかし、その男が新妻に自分の畑を指して言うなら antaga とは言えない。

kuma : tu : taga pari jassa :

ここは 自分 (達) の 畑 です

他の多くの方言の「w (b) a-」に対応する語は、この方言ではみつからなかった。宮古の他方言同様、w (b) a- 系統の大自己称は、tu :- に置き代っている。そしてそれに応じるかのように池間・多良間同様 (あるいはそれ以上) 1 人称複数形の守備範囲が広い。動作主としては、話し相手を含んでいてもいなくても用いられる。

日本放送協会編 (1972)
(1902年～1908年生まれの話者, 収録1969年)

SG		anu
PL	EXCL	antaa
	INCL	tuuta

or

SG		anu
PL	EXCL	antaa
	INCL	tuutaa

伊豆山(1994)
(1904年生まれの話者, 調査1994年?)

大神島方言
(Pellard 2009)

SG	anu
PL	anta

INCL-EXCL



移行期
(Extended-EXCL)



Unified we

除括類型論で想定される区別消失過程

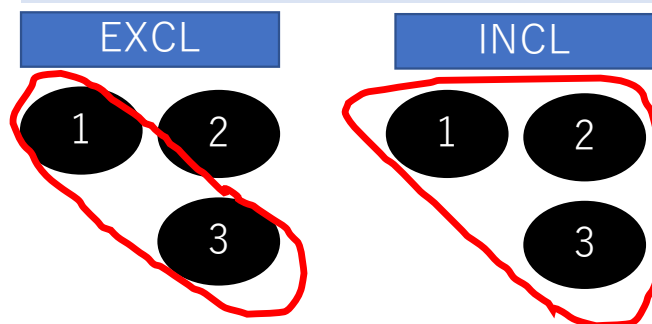
Generalisation 13

Whenever an inclusive-exclusive contrast disappears from a language, it is almost always **an inclusive, not an exclusive, form that remains** to take over the combined first-person plural reference.

除括の対立が消失する際、**除外形ではなく包括形が生き残り**，統一された1人称指示を担うようになるのがほとんどである。

Filimonova (2005: 412, 太字は発表者)

Lichtenberk (2005)の議論



バンチャー スパウ ファーディドー
私たちは 宮古そばを 食べますよ



除外（聞き手含まず）

ドゥーヤ スパウ ファーディイ
私たちは 宮古そばを 食べようね



包括（聞き手含む）

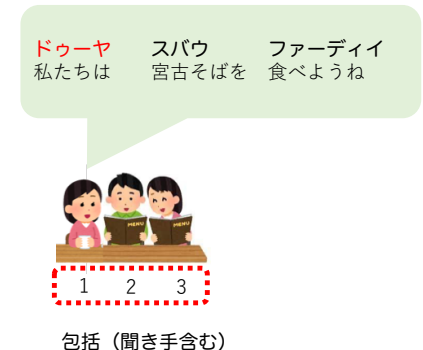
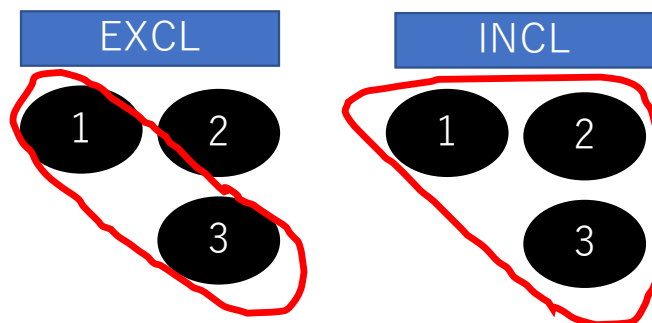
宮古のデータはG13への反例

Generalisation 13

Whenever an inclusive-exclusive contrast disappears from a language, it is almost always **an inclusive, not an exclusive, form that remains** to take over the combined first-person plural reference.

除括の対立が消失する際、**除外形ではなく包括形が生き残り**，統一された1人称指示を担うようになるのがほとんどである。

Filimonova (2005: 412, 太字は発表者)



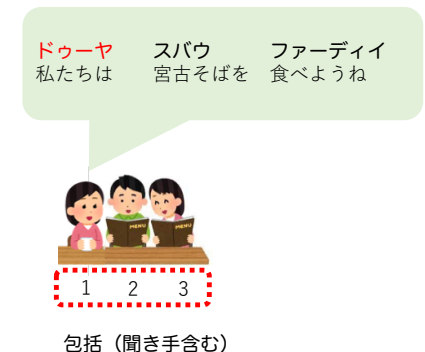
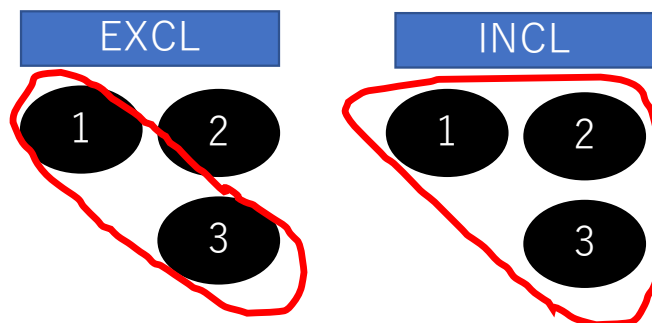
拡張除外体系の存在：（これまで不明だった）除外が生き残るメカニズムの解明に

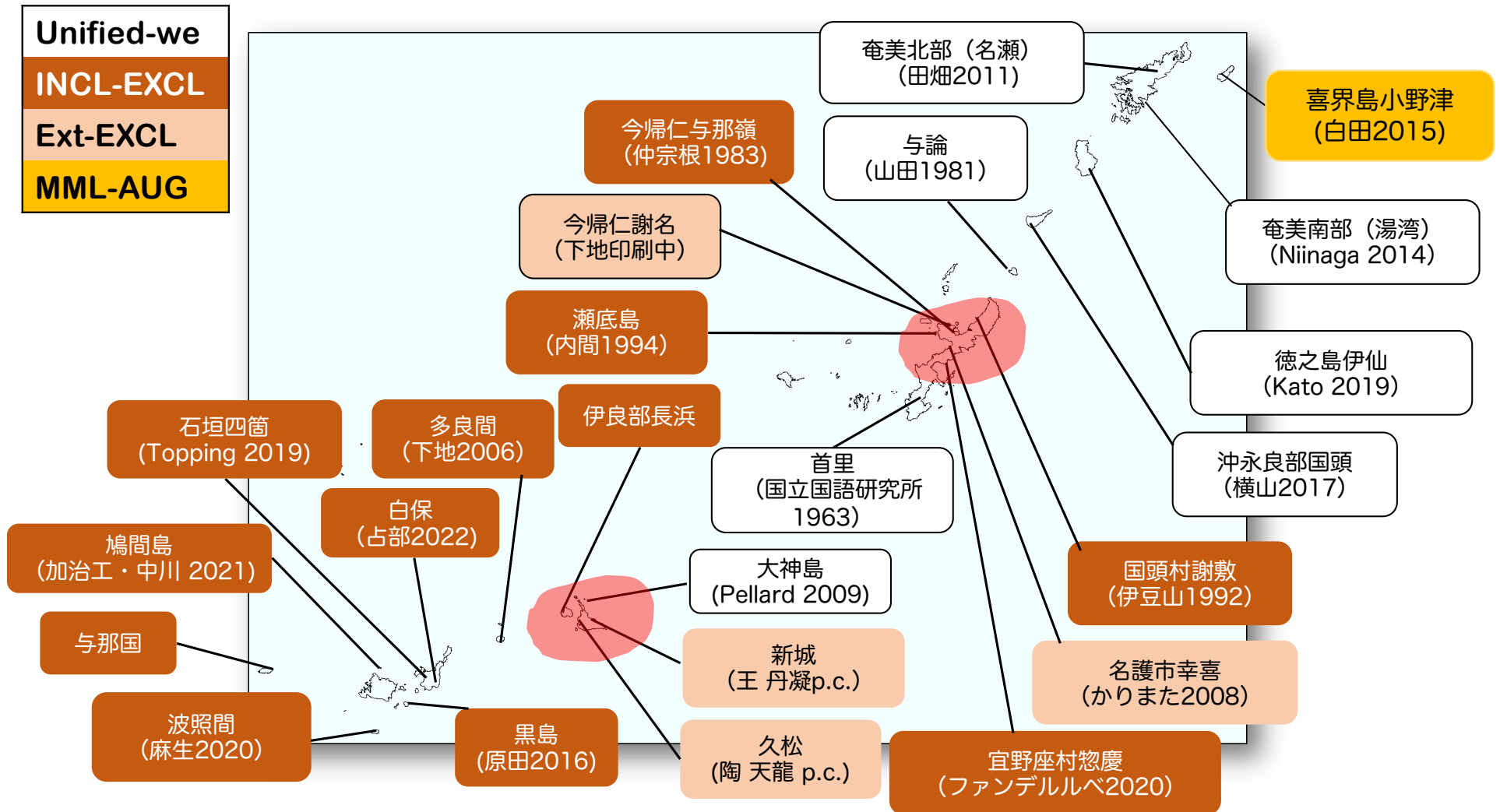
Generalisation 13

Whenever an inclusive-exclusive contrast disappears from a language, it is almost always **an inclusive, not an exclusive, form that remains** to take over the combined first-person plural reference.

除括の対立が消失する際、**除外形ではなく包括形が生き残り**，統一された1人称指示を担うようになるのがほとんどである。

Filimonova (2005: 412, 太字は発表者)





下地理則 琉球諸語における除括性（clusivity）の類型的特徴と通時変化

除外形が包括領域を侵食する動機： 除括性 > 人称対立性への再分析

除括性	人称対立性	例文	INCL-EXCL >	移行期 (Ext-EXCL) >	Unified-we
1+3	vs. 2	私たち そばを食べます。	EXCL形式		
1+2	vs. 3	あの2人はカレーだって。 じゃあ 私たち は何食べようか？	INCL形式		
1+2		(隣の人に) 私たち 何食べようか？			

SG		wan
PL	EXCL (vs. 2)	wattaa
	INCL (vs. 3)	
	INCL	agamii

人称対立形 vs. 包括形
(下地2021, 印刷中)

除外

wattaa=ja suba kamabin.
私たちEXCL=は 沖縄ソバ 食べます。

包括

attaa=ja suba giseesiba
彼ら=は 沖縄ソバ らしいけど
wattaa=ja nuu kamiiga?
私たちINCL=は 何 食べようか？

agamii=ja nuu kamabiiga?
私たちINCL=は 何 食べようか

人称対立あり

人称対立なし

除外形の拡張による対立の消失プロセス (並行発達の可能性は十分にある)

除括性	人称対立性	例文	INCL-EXCL >	移行1 >	移行2 >	移行3 >	Unified-we
1+3	vs. 2	私たちそばを食べます。	EXCL形式				
1+2	vs. 3	あの2人はカレーだって。 じゃあ 私たちは何食べようか？	INCL形式				
1+2		(隣の人に) 私たち何食べようか？					
			伊良部など	実証なし (幸喜?)	謝名 (幸喜?)	新城など (幸喜?)	首里など

SG		ban
PL	EXCL	banti
	INCL	duu

SG		wan
PL	EXCL (vs. 2)	wattaa
	INCL (vs. 3)	
	INCL	agamii

SG		ban
PL	EXCL	bantaa
	INCL	duutaa

SG		wan
PL	EXCL	wattaa
	INCL	

再び、除外形が包括領域を侵食する動機： 除括性 > 人称対立性への再分析

除括システムから人称対立システムへの移行が動機づけられたものであるという本発表の主張が正しければ、系統的に関連のない他の言語でも、同様の変化が実証されうるはず。今後、この点に注目して研究します。

再び、除外形が包括領域を侵食する動機： 除括性 > 人称対立性への再分析

満州語：少なくとも共時的に、除括の区別とされていた体系が、本発表で扱った謝名方言の体系にそっくりである点は重要。これが通時的に INCL-EXCL > 除外の拡張 > 消失の過程にあるのかどうか、今調査中。

形式	従来の見解	服部・山本(1955[1987: 436-437])
mäse	包括形	包括。
bo	除外形	或る種の関係で一団をなす人々を、話し手を含む側の人々とその他の「人(々)」に分け、話し手を含む側を指す。その話し手の側から話し相手が除外されるとは限らない。

満州語以外のツングースは除括対立がはっきりしているし、形式も対応することからも、かつて満州語にも除括の対立があったと見て良いのでは
(風間伸次郎氏, p.c.)

ここまでのまとめ

- 琉球諸語の中には、現在の除括類型の1タイプに組み込めないものがある。
- 拡張除外体系に対して新たな類型タイプを立てるより、通時的な観点で、既存タイプ間の移行過程にあると見た方が良さそう。
- 以下の一般化に対する反例であり、除外の拡張プロセスが動機づけられたものであり、類例も見つかる可能性も示唆された。

Generalisation 13

Whenever an inclusive-exclusive contrast disappears from a language, it is almost always **an inclusive, not an exclusive, form that remains** to take over the combined first-person plural reference.



琉球諸語の除括性： 今後の課題と展望



1. 除括性と統語環境

除括性（あるいは人称対立性）の中和

- ある方言に除外・包括（あるいは人称対立）の区別があるか？
という観点
- 1つの方言でも統語環境によって区別が中和したり，他の環境における対立と様相が変わることはないか？
 - 久米島儀間方言（伊豆山1994: 7）
 - wattaa（除外） vs. agataa（包括；伊豆山は「大自己」）
 - 連体修飾格でなく主語の場合には**話し相手に無関心でかなり自由に使われる。**
 - 八重山方言（とだけ記すが石垣四箇か；宮城1989: 381）
 - oori toori **bagaa slmakai**「ようこそ**我が島**へ」が，聞き手である観光客に対して使える，とわざわざ明記して，本来bandaaであるところ，包括のbagaaが可能な例として述べている。ただし，共通語の「我が子」のように語彙化・固定化している可能性もある。

謝名の場合：主格と所有格

	主格	所有格
除外 (vs. 2)	ワッター	ワッタ(ー)
対立包括 (vs. 3)		ワッタ(ー)/アガ(ミー)
一般包括	アガミー	

ヤークァーヤ プドゥマギーエーシガ {ワッタ/*アガ}クァーヤ プドゥグマーエン
 あんたの子供は 背が高いけど、 私たちの子供は 背が低いよ



対立包括：両方可能

	主格	所有格
除外 (vs. 2)	ワッター	ワッタ(ー)
対立包括 (vs. 3)		ワッタ(ー)/アガ
一般包括	アガミー	

アッタクワーヤ プドゥマギーエーシガ {ワッタ/アガ}クアーヤ プドゥグマーエンヤー
 あれたちの子は 背が高いけど 私たちの子供は 背が低いね



一般包括：両方可能

	主格	所有格
除外 (vs. 2)	ワッター	ワッタ(ー)
対立包括 (vs. 3)		ワッタ(ー)/アガ
一般包括	アガミー	

{ワッタ/アガ}クァーヤ プドゥグマーエンヤー
 私たちの子供は 背が低いね



2. 包括形の 「代名詞っぽくなさ」

除外形と包括形の非対称性： 包括の「代名詞っぽくなさ」

内間(1979: 200-201, 強調は発表者)

アガ系：聞き手を含む相手側をすべて“私たち”の中に包含する。一身同体意識を持ち、互いに基底において深く結ばれていることを意識する。

ワッター系：聞き手を含む相手側を“私たち”の中に含めない。wattaaを用いる時は聞き手およびその周辺に対しては、ittaa（君たち）、nattaa（あなたたち）などの意識がある

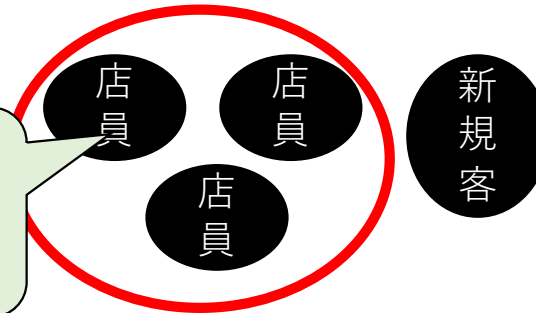
包括形とされているもので、このように「家族」「島」「仲間」などの結束集団という指定を持っていそうな形式は他の方言にもありそう。沖縄語に広く見られる**イガルー**、津堅島方言の**ビティ**（又吉里美氏p.c.）、伊平屋の**ドゥーナター**（Salvatore Carlino氏p.c.）など。

謝名方言の包括形agamii： ケーススタディー（現在，調査進行中）



喫茶店の店員とたまたまきていた新規の客：
火事があって，逃げ出した後に店員がいう

アガミー ムル ダイジョーブ エンナ？
INCL みんな 大丈夫 かな？

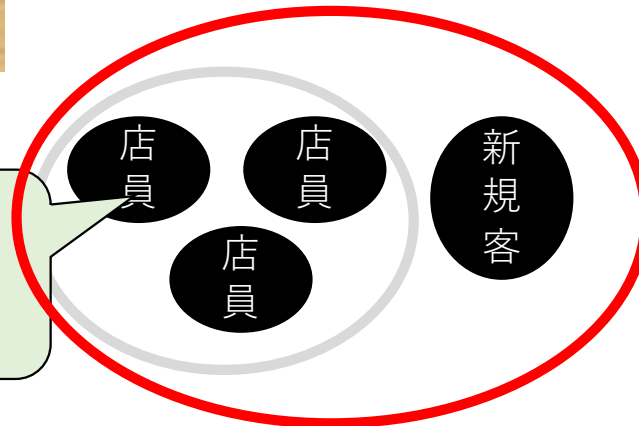


agamiiは、集合の中の「仲間」を指定

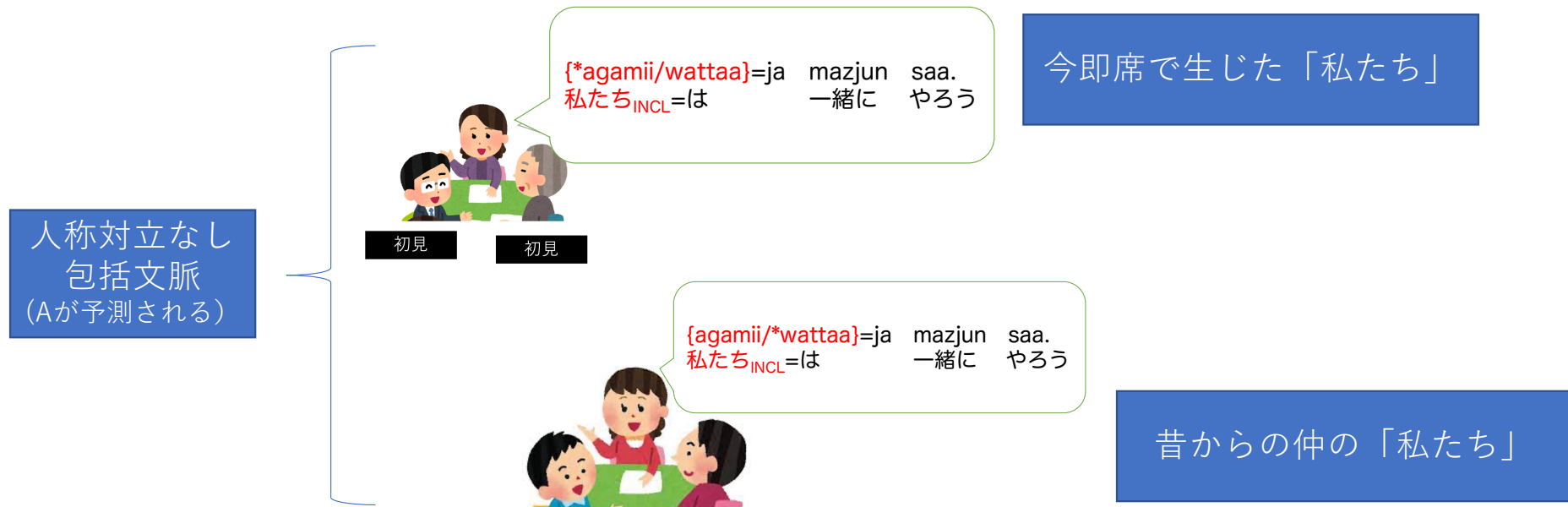


喫茶店の店員とたまたまきていた新規の客：
火事があって、逃げ出した後に店員がいう

~~アガミ~~ ムル ダイジョーブ エナ？
~~INCL~~ みんな 大丈夫 かな？



即席の（居合わせの）集団を指しにくい



共通利害集団
(弁護団と被告)
「私たち勝とうね」



アガミー ゼットアイ カターヤー
INCL 絶対 勝とうね

利害対立集団(=敵)同士
(弁護士と検事, 検事と被告)
「私たちしっかり話し合いし
ようね」



ワッターヤ フントゥーヌ クトゥビケー パナシ サーヤー
CNTは 本当の ことだけ 話 しよう

「私たち今日から別々のク
ラスだね」



「私たち今日から同じクラス
ですね」



agamiiの類型的解釈: 代名詞かつ連合という位置付けはできないか

Daniel (2020: 4)

代名詞複数：and others（文脈によって誰でも含められる）

連合複数：and associates（指定特性がある）

代名詞なのに連合，というのは極めて珍しい（cf. Sursurunga語のquadral, Hutchisson 1986）

		代名詞	固有・親族	その他
異質 (heterogeneous)	and others	Typical ProPL		?
	and associates	?	Typical AscPL	?
同質 (homogeneous)			(the Simpsons)	Typical AddPL

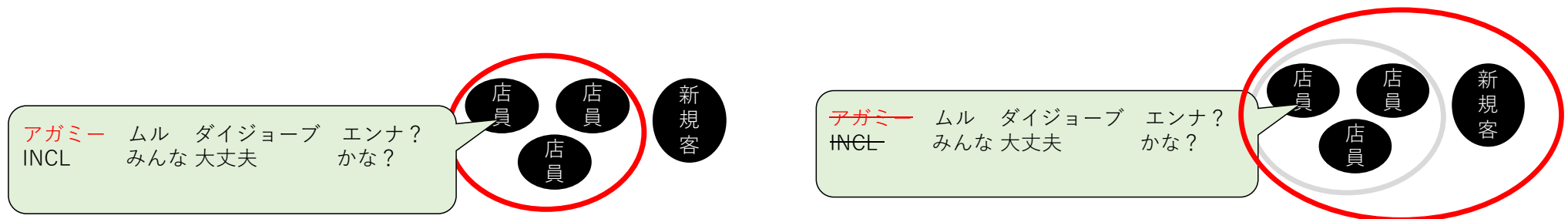
agamiiの類型的解釈: 連合複数の階層を援用・精緻化できないか

Moravcsik (2003: 471)

G-2. The choice of associates for associative plurals

(a) Human > Animate

(b) Family relations > Friendship, Shared activities > Incidental association



上記の問題を踏まえた調査票を公開しています

- Zenodo
- 日琉諸語における除括性の調査票ver.2.0
(**DOI:** 10.5281/zenodo.6587472)

科研費（基盤B）取得を目指して 除括性の共同研究をスタートします

- 7月より月1で
 - 新永氏，上林氏はすでに参加中です。
 - 現時点でわかっていることを報告する（→申請時の業績作り）
 - キー論文・文献の輪読・紹介など
 - 本土方言研究者も歓迎します
 - 東北などにある-ho（ora-hoなど）の問題
 - その他，Associative Pronounを持っている可能性を探る
- 関心のある方はチャットで（あるいはメールで）
下地までご連絡ください。
smz@kyudai.jp

参照文献

- 麻生玲子(2020)「南琉球八重山語波照間方言の文法」博士論文, 東京外国語大学.
- Boas, Franz (1911) Introduction. In Franz Boas (ed.), *Handbook of American Indian Languages*, vol. 1, 1-83, Washington, DC: Bureau of American Ethnology.
- Cysouw, Michael (2003) *The Paradigmatic Structure of Person Forms*. Oxford: Oxford University Press.
- Cysouw, Michael (2005) Inclusive/exclusive forms for 'we.' In Martin Haspelmath, Matthew S. Dryer, David Gil and Bernard Comrie (eds.) *The world atlas of language structures*, 162-169. Oxford: Oxford University Press.
- Daniel, Michael (2020) Associative plural as indexical category. *Language Sciences* 81: 1-12.
- ファンデルルベハイス(2020)「沖縄県宜野座村惣慶方言の代名詞・指示詞・疑問詞」, 『琉球の方言』, 44: 15-34.
- Filimonova, Elena (2005) *Clusivity: typology and case studies of the inclusive-exclusive distinction*. Amsterdam/New York: John Benjamins.
- 福沢知史・早田輝洋(2003)「一人称代名詞の包括形・除外形について－満文訳と対比した『崇禎本金瓶梅』に於ける「咱」を中心に－」『満族史研究』第2号:22-41 満族史研究会.
- 原田走一郎(2016)「南琉球八重山黒島方言の文法」博士論文, 大阪大学.
- 服部四郎・山本謙吾(1987)「満洲語の一人称複数代名詞」服部四郎論文集『アルタイ諸語の研究 II』:419-431 三省堂
- 林由華(2013)「南琉球宮古語池間方言の文法」博士論文, 京都大学.
- Hutchisson, Don. 1986. Sursurunga Pronouns and the Special Uses of Quadral Number. In Wiesemann, Ursula (ed.), *Pronominal Systems*, 1-20. Tübingen: Gunter Narr Verlag.

参照文献

- 伊豆山敦子(1992)「琉球方言の1人称代名詞」『国語学』171: 1-19.
- 伊豆山敦子(1994)「琉球・八丈島両方言における2種の1人称代名詞」『獨協大学教養語学研究』28(2): 1-18.
- Jacobsen, W. H., Jr. (1980) Inclusive-exclusive: A diffused pronominal category in native western North America. In J. Kreiman & A. E. Ojeda (eds), *Papers from the parasession on pronouns and anaphora*. Chicago Linguistic Society, April 18-19, 1980, 326-406. Chicago IL: Chicago Linguistic Society.
- かりまたしげひさ(2008)「沖縄県名護市幸喜方言の名詞の格＝とりたて-ga格、nu格、ハダカ格、jaのとりたて-」, 『日本東洋文化論集』, 14: 1-80.
- Kato, Kanji (2019) A sketch grammar of the Tokunoshima Isen dialect. *Language, area and culture studies* 26 p.211 -228
- 加治工真市(著)・中川奈津子(編)『鳩間方言辞典』国立国語研究所.
- 衣畑智秀・林由華(2014)「琉球語宮古狩俣方言の音韻と文法」『琉球の方言』38: 17-49.
- 国立国語研究所(編)(1963)『沖縄語辞典』大蔵省印刷局.
- Lichtenberk, Frantisek (2005) Inclusive-exclusive in Austronesian: An opposition of unequals. In Filimonova, ed., *Clusivity: typology and case studies of the inclusive-exclusive distinction*. Amsterdam/New York: John Benjamins.
- 宮城信勇 (1989)「八重山方言の「わたしたち」「我が家」の二つの表現」『沖縄文化 沖縄文化協会創設四〇周年記念誌』375-383.
- Moravcsik, Edith (2003) A semantic analysis of associative plurals. *Studies in Language* 27 (3): 469-503.
- 仲宗根政善(1983)『沖縄今帰仁方言辞典 今帰仁方言の研究・語彙篇』東京：角川書店. Niinaga, Yuto (2014) A grammar of Yuwan, a northern Ryukyuan language. PhD thesis, University of Tokyo.
- 日本放送協会(編) (1972)『全国方言資料第11巻（琉球編2）』日本放送協会.

参照文献

- 王 丹凝 (in.prep.) 「南琉球宮古語城辺新城方言の文法」九州大学博士論文として執筆中
- Payne, John (1980) The decay of ergativity in Pamir languages. *Lingua* 51:147-186
- Pellard, Thomas (2009) Ogami: El ements de description d'un parler du sud des Ryukyus. PhD thesis, Ecole des hautes etudes en sciences sociales.
- 下地賀代子(2006) 「多良間方言の代名詞」 『千葉大学社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書』 84: 64-82.
- Shimoji, Michinori (2008) A grammar of Irabu, a Southern Ryukyuan language, PhD thesis, Australian National University.
- 下地理則(2021) 「北琉球沖縄語今帰仁謝名方言における除括性(clusivity)」 日本言語学会第163回大会発表予稿集.
- 下地理則(印刷中) 「北琉球沖縄語今帰仁謝名方言における2種類の「私たち」と除括性(clusivity)」 小川芳樹・中山俊秀(編) 『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論3』 開拓社,
- 白田理人(2015) 「奄美喜界島方言の文法記述 ―人称複数を中心に―」 第 37 回 沖縄言語研究センター研究発表会資料：修正版(2015/6/13)
- セリックケナン(2018) 「南琉球宮古語下地皆愛方言-簡略記述・談話資料・語彙集」 『言語記述論集』 10: 97-249.
- 内間直仁(1979) 「アガーミ意識とワッター意識：琉球方言の指示代名詞から」 『琉球の方言』 5: 200-219.
- 内間直仁(1994) 『琉球方言文法の研究』 東京：笠間書院.
- 占部由子(2022) 「南琉球八重山語白保方言の記述研究」九州大学博士論文.
- 渡久山春英・セリックケナン(2020) 『南琉球宮古語多良間方言辞典』 国立国語研究所.
- Topping, Matthew (2020) Topics in the grammar of Shika Yaeyaman. MA thesis, University of the Ryukyus.
- 山田実(1981) 『与論方言の体言の語法』 第一書房.
- 横山晶子(2017) 「琉球奄美沖永良部島国頭方言の文法」 博士論文, 一橋大学.